

# 第6回長臨技Webセミナー QandA

Q: FRC(機能的残気量)、DLCO(肺拡散能力機能検査)で注意されている事はありますか？

FRCのRVとDLCOのRVなどの関係などの関連を見ているのでしょうか？  
勉強不足でキチンとした数値を出せているか悩むことが多々あります。  
アドバイスをお願いします。

・FRCではVC測定と同様のTV・IRV・ERV・VCの量・位置関係になっているかを注意します。逆に、FRC測定の際の安静呼吸のほうが実は本来の呼吸の時もあります。測定最後に行うVC測定は、行わないという設定もできますが、行うことをお勧めします。(VC測定の方が悪ければVC測定をやり直します。)測定で気を付けることは、正しい姿勢であること、途中で姿勢を変えないこと(姿勢が変わるとTVの位置が変わるため)、寝ないようにしてもらうこと、常に口元、呼吸管の接続部付近が緩んでいないか注意して見ておくこと、酸素吸入をしている被検者はSpO2を確認しながら行うこと…などでしょうか。

・DLCOは運動直後、食事直後は偽低値となるので検査前に確認をしています。測定値はVC測定(最良値)と同様の、TV・IRV・ERV・VCの量・位置関係になっているかが基本です。最大吸気はできるだけ速く吸ってもらいます。もう一度行うときは、深呼吸を続けてもらい最低3分は空けます。

・FRCとDLCOのRVの関連については、大きな差がある場合はどちらかの測定で不十分なところがあるということになりますが、測定原理的には、FRC測定でのRVの方がより真値に近いと考えられます。

・この検査は、呼吸動作がそのまま数値になります。「？」を感じた数値と、さっきの動作で不十分なところが連動しているはずですが、基本動作の、息が止まるまで吸わせること吐かせること、力いっぱい吹かせることに「手加減をしないこと」が、やはり納得のいく数値につながるのだと思います。

・どうしてもこれは相手との合同作業なので、難しいことはたくさんありますし、出た数値もこれでいいのか悩みます。二者協同で最良値を出すよう努力して丁寧に検査を行い、被検者も満足、わたしたちも、これが今日の最良値だという手応えを感じて終わりたいですね。

Q: 耳が聞こえない方はどの様な工夫をして実施していますか？

- ◆ 合図の言葉、説明の文を紙に書いておいて説明し、その動作の時に合図の言葉を呈示する。
  - ◆ 技師が話す口の動きを読んでもらって、身振りを交えながら説明をする。
  - ◆ 技師の身振りに合わせて安静呼吸をしてもらい、肩をたたく合図で思いっきり吹くなどの打ち合わせをして行う。
  - ◆ 手話通訳がいるときは、その方にも被検者に行うのと同様の説明し、合図のタイミングを合わせてもらう。
- このような方法をアレンジし、被検者に理解のしやすい方法を組み合わせで行っています。  
メーカー製のポスターには、ひとの絵が描いてありますので動作が伝わりやすく、使いやすいと思います。  
いずれにしても、技師がやって見せて、その流れを理解してもらうことが大切だと思います。



ご質問、ありがとうございました。